

淑女検定

☑ チャレンジテーマ

メール術

今や老いも若きもコミュニケーションはメールや対話アプリ。家族や友人、同僚と言葉やスタンプを送信し合う時代だ。でも声や表情のやりとりがない分、トラブルの原因にもなりがち。現代は言葉を操る能力が問われる時代でもある。

問題 1 親しくなりたいママ友への体調を気遣うメール。より相手に親しみを伝える水野先生おすすめの呼び掛け方はどれ？

- A. はるかちゃんママ
- B. 千賀子さん
- C. 山中さん
- D. はるかさんのお母さん



問題 2 なかなか会えない恋人に寂しい気持ちをメールで伝えたい。より相手の心を動かしたい時の水野先生おすすめテクニックはどれ？

- A. 寂しさをストレートに表現しない
- B. 「寂しい」とダイレクトに送る
- C. 逆の感情をぶつけてみる
- D. メールを送らず相手の連絡を待つ



問題 3 友人へ送るメール文章を柔らかくするコツとして間違っているものはどれ？

- A. センテンスを短めにする
- B. 「です」「ます」をやめてみる
- C. しゃべり言葉をそのまま書く
- D. 話しかけるように書く

SBS学苑
パルシェ校

今月の
先生



[プロの書き技～作家に学ぶ
小説の書き方入門]講師

水野 麻里 みずの まり

作家

受講生の作品を教材として「小説家とは何か？」
「書き方のまきまり」などの講義を交えて進めていく

SBS学苑パルシェ校
INFORMATION

10/13(土) 14:30～16:00

食の冒険家・小泉武夫の食文化論

講師/小泉武夫(東京農業大学名誉教授、農学博士)
受講料/一般 3,180円

会場/静岡商工会議所会館5階ホール
会員 2,808円(管理運営費込)

発酵食文化のプロフェッショナルが、味の
国境・静岡の食文化論を楽しく熱く語ります。

【お問い合わせ・お申し込み】
Tel.054-253-1221

正解 & 解説

問題 1 → 正解 B

普段は「○○ちゃんママ」とお互い呼び合っているママ友から、メールで「千賀子さん、体には十分気を付けてね」と名前で語り掛けられると、受け取った側は「はるかちゃんのママ」ではなく本人を気遣ってくれたのだと受け止め、思いやりの言葉がより心に染みることもある。**結婚で苗字が変わった人にとっては、名前で呼ばれた方がより響く。**このように呼び方一つで受け止め方が違ってくる。

問題 2 → 正解 A

メールでは、ストレートに言葉を表現するとかえって相手に気持ちが伝わりにくい場合もある。恋人に会いたい時、「寂しいから会いたい」と送るより、「お互い忙しくてなかなか会えないね…」、数行空けて「…でもこんなことでダメになりたくないよ」と送る方が響くことも。「うまく伝わらない場合、相手に気持ちを想像させる書き方にするより伝わるはずですよ」と水野先生。「…」や余白もポイント。

問題 3 → 正解 C

友人に送るメールの内容が固すぎると、そのつもりがなくても「感じが悪い」と捉えられてしまうこともある。一方で、**気軽なしゃべり言葉そのままに書く**と「軽すぎる」という誤解を与えることもある。重要なのはどのくらいの親しさでいたいという距離感。会っている時に使わない固い言い回しをやめ、読みやすい文体にし、普段話し掛けるように書く。「メールで距離感を調節できれば、人間関係が楽になります」と水野先生。